

あたたかい子
かしこい子
たくましい子

学校だより

つよし

—第10号—

令和2年6月15日
平戸市立津吉小学校
文責 校長 田川定司

5月11日より学校が再開し、1か月が経過しました。学校は徐々に普段の生活を取り戻していますが、その間にも医療にかかわる方々は、命の危険にさらされながら私たちを守ってくださっていることを忘れてはならないと思います。このコロナウイルスのような感染症は過去にも何度も私たちを襲ってきています。そして、その度に人々は戦ってきました。

江戸時代の医師、緒方洪庵もその一人です。現在、一万円紙幣の肖像となっている福澤諭吉を始めとして、幕末から明治にかけて活躍した多くの人材を育てたのが、緒方洪庵の蘭学塾「適塾」です。洪庵は天然痘の予防に尽力しました。この感染症は致死率が20%~50%と非常に高く、洪庵は苦勞の末に手に入れた種痘の種で大阪に天然痘の予防接種を行う「除痘館」を開きました。しかし、種痘は、庶民に広がりませんでした。今でこそ予防接種は当たり前ですが、当時は牛のワクチンを使用したため、それを体に植え付けると牛になるとのうわさが広がったからです。洪庵は「子供たちの命を天然痘から守る」との強い信念から、まず貧しい家の子に無料で種痘をしていきました。その後、郷里の足守藩の要請で「足守除痘館」を開き多くの命を救うとともに、コレラ流行に際しては『虎狼痢治準』という治療手引き書を著し、江戸幕府から天然痘予防の活動も認められました。

洪庵は、『扶氏医戒之略』という著書に、医師が守るべき戒めを、十二か条にまとめています。その中で「不治の病で、たとえ医術で救うことができなくても、患者をいたわるのは仁術である。」と説いています。「仁」とは、慈しみや思いやりの心を指します。「愛情を他に及ぼす」という洪庵の生き方そのもののように思います。先の見通せない不安な世の中で、新型コロナウイルス感染によるいじめや差別、風評の広がりが懸念されますが、今こそ洪庵のように様々な人に愛情を及ぼす心を広げ、感染症をみんなの力で乗り越えていきたいと思います。学校でも、新型コロナウイルス感染症を思いやりの心を育て「あたたかい子」を育む好機ととらえ、「人権教育」を進めていきます。

浄水場見学



5月28日(木)に4年生が、社会科の学習で、大川原町の阿奈田浄水場を見学しました。

虫取り



2日(火)に、1・2年生が、生活科の学習で、掃除前のプールを使い、虫取りをしました。

稲の種もみまき



4日(木)に、5年生が、稲の種もみまきをしました。26日に田植えをします。

※ 裏面もご覧ください。

津吉小学校のフラワーロードが掲載されました！

6月5日（金）に実施した「フラワーロード」の活動が、下記の通り、長崎新聞に掲載されました。津吉っ子の活躍が、広報されて大変うれしく思います。



苗を植えたプランターをフェンスに飾り、水をやる児童
|| 平戸市立津吉小

学校周辺を美しく飾ろう

平戸・津吉小フラワーロードづくり

平戸市田代町の市立津吉小（田川定司校長、119人）の学校周辺美化活動、フラワーロードづくりが5日、同校であった。活動には平戸更生保護女性会が毎年参加。この日は、全校児童と同女性会員12人が、プランターに土を入れ、花の苗を植えたりした。プランターは児童が正門付近のフェンスに飾り、水やりした。

を強調。6年生の浦邊歩夢君（11）は「毎日、水やりして、地域の人たちが気持ち良くなってくれたらいい」と話した。

（辻秀敏）

同女性会津吉地区評議員の上田正子さん（71）は「これからも子どもたちが、事故や犯罪に遭わないよう見守っていく」と交流の意義